

# 2012年度 早稲田大学 法学部 入試 総評

## 英語

### i) 概論

形式、分量、難易度とも誤差レベルの変化しかなかった。I、IIをそれぞれ35分、III～VIを7～8分、VIIを12～13分程度が時間の目安か。ともかく、ゆとり教育世代にとっては拷問のような分量である。また、例年、「一致するもの・適しているもの」だけでなく「一致しないもの・適していないもの」を選ぶ問題が相当数混入しており、どちらの指示なのかを、問題ごとにきちんと確認する注意力までも求められている。

### ii) 各論

- I. (1) 最も特徴的な問題で、8つの「段落の要旨」を12個〔ダミー4個含む〕の選択肢からそれぞれ選ぶ。常日頃から段落のトピックを捉える訓練が必要である。同大学のスポーツ科学部や2011年度までの国際教養学部でも同様の形式の問題が出ているので、仕上げの際にその過去問題も練習に利用すると良い。2は、Fの「貧富の差を軽減させた政策を挙げ、その政策がかつて多数の人々に支持されていたことを述べている」が正解。To be sure ～. But … の論理標識で力点部分が明示されるので、それをヒントにしたい。4は、段落後半に「英国の例」が出ていることに気づけば難しくない。(2) 本文と照合し、書き出しに続けるのに適していないものを選ぶ。Aは⑥段落第2文と一致するので除外。英米で多くの社会問題となっている原因は、the poor 貧民〔貧困〕そのものではなく、inequality/gap「貧富の格差」なのでBが正解。(3) 文中の、下線部の語句の言い換えとなる語を選ぶ。その語を直接知っていることを求めているのではなく、周囲の語句から推論させるもの。(4) 文章全体を要約した文を選ぶ。(1)の延長線上にある問題である。
- II. 文章自体は異なるが、先行する国際教養学部のIII〔日本語記述問題〕で扱われたのと同じテーマだった。併願した受験生には有利に働いたかも知れない。(1)及び(3)Iと似たようなパターン。(2)本文の内容に一致しないものを9個の選択肢から4個選ぶ。(4)文中の5つの語の中で、アクセントのある位置の母音の発音が他の4つと違うものを選ぶ。これはほとんど対策しなくてもできるだろう。(5)文中の、下線を施した語句の言い換えとなる語句を選ぶ。1はCかDで悩むが、コロケーション的にnaturallyは苦しく、かといってquicklyだとspontaneouslyの原義からやや離れてしまうため、良問とは言えない。
- III. 文中の、文法語法上の誤りを含む箇所を選ぶ。誤りがない場合〔ALL CORRECT〕もあり。(2)(3)(4)については2003年度の同大学同学部で出題された例文と同じ文を用いており、(2)は何もかも同じ、(3)は誤り箇所が同じ、(4)は一語変えただけ。今後、最新の赤本に収録されていない過去問題にも注意が必要となろう。(1)後置修飾語句等によって、読み手にとって特定化できる名詞には定冠詞theが必要。(2)誤りなし。(3)spendの過去分詞はspendedではなくspent。(4)this/last/nextなどで修飾される時間語句は、前置詞をつけずに副詞句を形成する。など、拍子抜けするような平易な問題ばかり。
- IV. 文中の空所に、文法語法的に適していない語句を選ぶ。(1)amountやnumberの「多少」はlargeとsmallで表す。(2)speakは「人」を目的語に取らない。(3)let+目的語+原形不定詞〔to不定詞は不可〕。など、基礎が一通りできている受験生には嬉しい標準的な問題ばかり。
- V. 文中の5つの空所に、それぞれ適切な前置詞を10個の選択肢〔ダミー5個含む〕から選ぶ。(1)as a result of～「～の結果として」。(2)be+Vpp+by～→受動態の基本形。(3)on Ving…「V…して、するとすぐに」。(4)at～「～に従事して」。(5)be fit for～「～に適している」。など、全て標準的な問題ばかり。頻度の低い熟語を問うようなものはなかった。

VI. 指定語を使い、日本語に合う英文を完成させる。(1) be on the [又は所有格] way to ~ 「~へ行く途中である」。(2) on ~ 「~に関して{の}」。(3) Would you mind if I V 現在形又は過去形…? / Would you mind my Ving…? 「V…してもいいですか」。など、どれも標準的な問題。ただし、(3) の if I V…の V には現在形〔直説法〕だけでなく過去形〔仮定法〕も使えることを知らないと、joined に戸惑ったかも知れない。

VII. 与えられたテーマに対する意見や論拠などを自由に英語で書く問題。本年は「ゆっくりと取り組んだ方がよいもの」の例を一つ挙げ、その理由を最低一つ書くように、という指示であった。あまり時間もかけられないだろうから、無理に理由を2つ以上書こうとしないのが賢明である。昨年と比べ、かなり漠然としたテーマなので、とっさにネタが思いつかなかった受験生も多かったのでは。早稲田の法学部に限らないが、普段からの brain storming の訓練が必要である。